

【成果概要】3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価【名古屋市】

■ 成果

- 名古屋市に影響を与える可能性のある豪雨について、愛知県全体を含む領域(右図参照)で、将来頻度及び強度について影響の可能性を調査した。ここでは各時間に最も多い降水量を抽出し、解析した。
- 一般的な豪雨対策基準である時間雨量50mmの基準となる豪雨は現在より1.2倍程度頻度が高くなる可能性が見られた。また、同程度の累積確率で発生する豪雨を現在と将来で比較したところ、将来の豪雨は強くなる傾向が見られた。
- 市内の豪雨の内水氾濫に対する適応策としては、ハザードマップの更新、タイムラインの作成、普及啓発が妥当と判断された。

解析対象領域(愛知県)

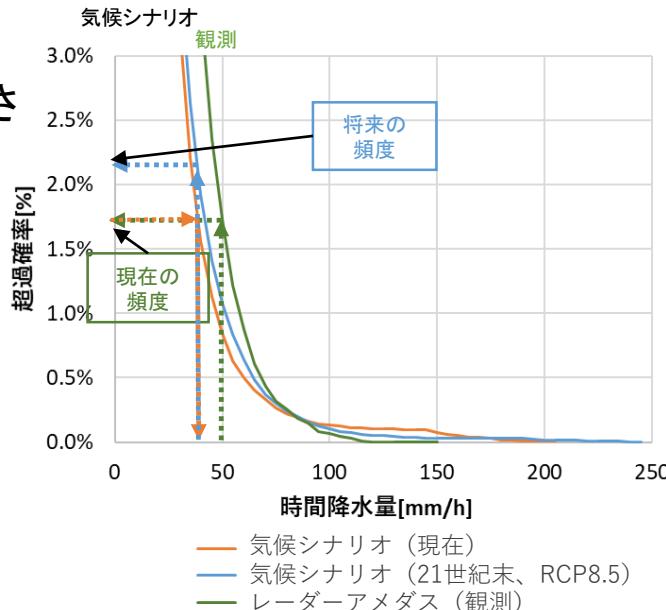


図. 領域最大降水量の超過確率
(時間50mm相当の雨の将来発生頻度の検討に利用)

3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価【名古屋市】

■ 適応オプションのまとめ

表. 名古屋市内の内水氾濫に対する適応オプション

適応オプション	想定される実施主体			評価結果							
				現状		実現可能性				効果	
	行政	事業者	個人	普及状況	課題	人的側面	物的側面	コスト面	情報面	効果発現までの時間	期待される効果の程度
ハザードマップの更新	●			普及は進んでいない	・特に無し	◎	○	△	◎	短期	高
タイムラインの作成	●	●	●	普及は進んでいない	・事業者、個人への普及は限定的	△	○	△	◎	短期	高
普及啓発	●			普及は進んでいない	・効果の実証が難しい	◎	○	△	◎	N/A	高